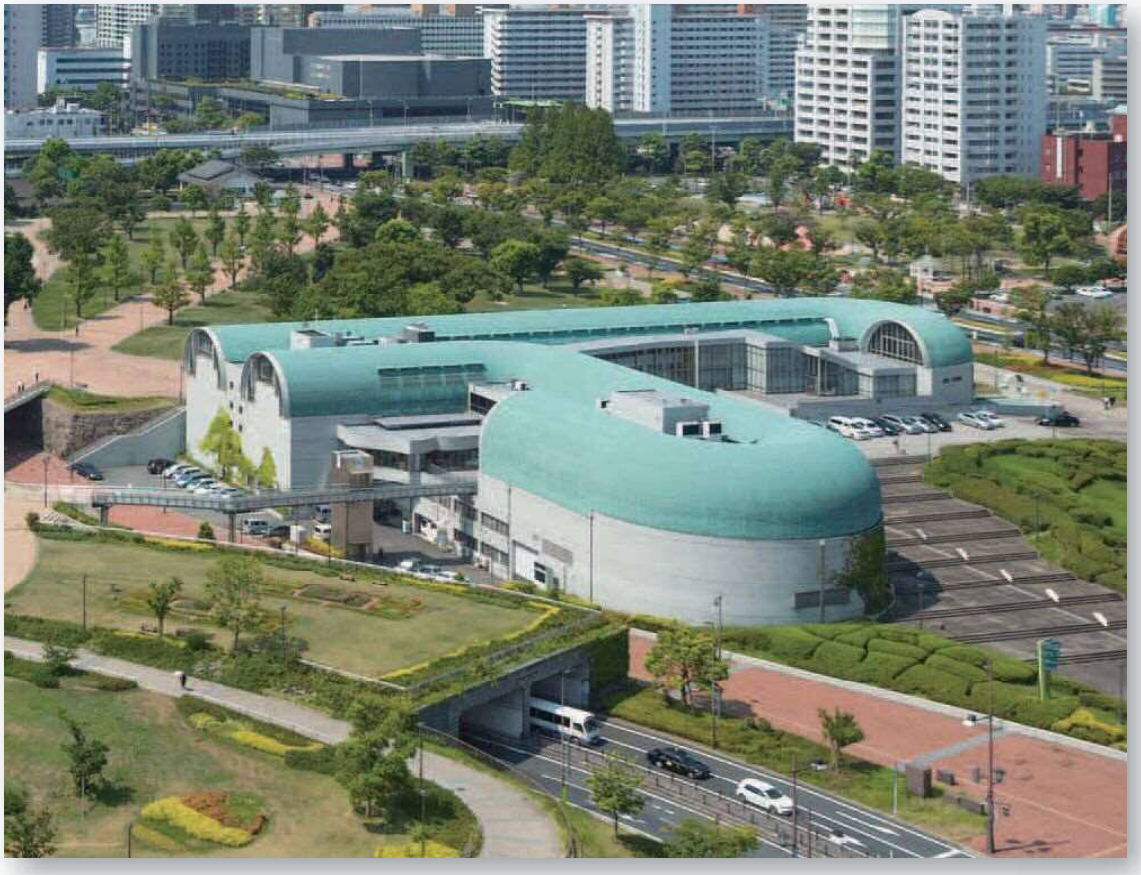
北九州市立文学館
展示リニューアル基本計画書



平成２９年１２月

北九州市立文学館

目　　次

第1章　リニューアルの背景

1　北九州市立文学館の基本的役割・機能 …… 1

2　北九州市立文学館の現況 …… 2

3　北九州市立文学館の強み …… 3

4　入館者のニーズ …… 5

5　北九州市立文学館の現状と課題 …… 6

第2章　リニューアルの基本方針

1　基本理念 …… 10

2　課題解決や具体的な方策 …… 12

3　リニューアルの概要 …… 14

資料編　文学館に対する意見・要望 …… 16

第１章　リニューアルの背景

１　北九州市立文学館の基本的役割・機能

北九州市立文学館は、本市ゆかりの文学者の顕彰と次世代への継承を目的に、平成18年に開館した。文学資料の収集や保存、研究等を行うとともに、その成果を生かした企画展や講演会の開催、全国規模の文学賞の実施などをとおして、文学の普及・啓発に取り組んでいる。それは自ずと本市固有の歴史、風土、文化の特徴を浮かび上がらせ、街の記憶として刻まれ、街の誇りへと繋がった。

しかし、開館から10年間で文学を取り巻く環境は大きく変化した。インターネットをはじめとする様々な情報メディアの普及による生活環境の変化や活字離れが指摘されている。

リニューアルした文学館が、次の時代を担う子どもたちや若者に、本市の豊かな文芸土壌の魅力を伝え、さらにシビックプライドの醸成につなげることが出来るよう、創意工夫のもと、新しい歩みを進めていく。

(1) 資料の収集・保存、調査・研究、展示

明治以降における北九州にゆかりのある文学者と文芸活動に関する貴重な資料の散逸を防ぐため、文化遺産として可能な限り収集・保存し、後世に残していく。

収集した資料を整理し、データベース化するとともに、収集した資料の分析を含む幅広い研究を行い、文学者の業績や人となりについて、資料の展示などを通して新しい視点で顕彰する。

(2) 普及・啓発

活字離れが指摘される中、文学に親しむ機会を提供し、大人はもちろん子どもたちにも文学の楽しさを紹介していく。

より多くの人が文学館に足を運び、文学に接してもらえるよう、北九州にゆかりのある文学者だけではなく、全国的に著名な文学者なども企画展で取り上げていく。

また、学校教育との連携により、小中学生・高校生の中から将来の文学ファンや担い手を育成していく。

(3) 地域の文芸活動の支援

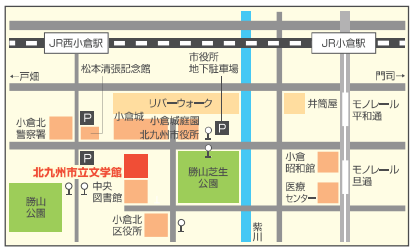
北九州には、かつて文学者たちの文芸活動を支えた多くの同人誌が存在し、現在も同人誌活動をはじめさまざまな文芸活動が盛んである。そのような地域の文芸活動に対して、活動・発表の場を提供するなど支援を行っていく。

2　北九州市立文学館の現況

(1) 所在・アクセス

ア　所在

北九州市小倉北区城内4−1



イ　アクセス

- JR小倉駅より徒歩15分
- JR西小倉駅より徒歩10分
- 勝山公園（市立文学館前）バス停より徒歩1分
- 北九州市役所前バス停より徒歩2分
- 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
- 北九州都市高速大手町ランプより車で2分

(2) 沿革

平成13年　北九州文化振興検討委員会で旧歴史博物館の文芸資料館への転用を提言

平成14年　（仮称）文芸資料館設置検討委員会を設ける

平成15年　（仮称）文芸資料館設置検討委員会が「北九州市文学館設置に向けての検討結果報告」を提出

（仮称）北九州市文学館の開設準備に着手

平成16年　（仮称）北九州市文学館開設準備委員会を設置

（仮称）北九州市文学館準備室（経済文化局文化国際部文化振興課内）を設置

平成18年　11月1日、北九州市立文学館（教育委員会生涯学習部）開館

館長に佐木隆三就任

平成24年　組織改正により文学館、教育委員会から市民文化スポーツ局へ移管

館長に今川英子就任、名誉館長に佐木隆三就任

平成25年　北九州市立文学館友の会発足

平成27年　全国文学館協議会幹事館を受任

(3) 施設概要

当館の建物は、建築家の磯崎新氏が歴史博物館として設計し、昭和49年に竣工した。平成18年に文学館仕様に改修。

1階:企画展示室、交流ステージ、ワークステーション、資料検索コーナー、シンボルウォール、、インフォメーション&ミュージアムショップ

2階:北九州文芸ギャラリー常設展示室（導入展示、北九州文芸の歩み、文箱展示、文学の中の北九州、北九州文学マップ）

3　北九州市立文学館の強み

交通の要衝、重工業都市として日本の近代を牽引してきたこの街は、人、もの、情報が重層的に行き交い、独特の文学風土が醸成された。そこからは多くの文学者が輩出、現在でも数多くの作家が多彩なジャンルで活躍している。

都心部に近い 立地と印象的な 建造物の活用	「文学の街・北九州」 としての 活動実績	全国規模で 実施する 複数の文学賞

(1) 都心部に近い立地と印象的な建造物の活用

本市の中心部に位置している。付近一帯は小倉城を中心とした勝山公園であり、市民や外国人観光客等でにぎわいを見せている。

(2)「文学の街・北九州」としての活動実績

本市は、森鷗外・火野葦平・林芙美子・杉田久女などゆかりの作家が数多く存在した文学の街である。それらを顕彰する施設として、文学館は平成18年に開館し、以来、市民や文学ファン、観光客ら数多くの人々に利用されてきた。

また、数々の教育普及活動を通し、事業活動のノウハウを蓄積してきた。

ア　展覧会活動

本市ゆかりの作家や著名作家の企画展、所蔵品等により、累計で約18万人の入館者が訪れている。

◆総入館者数　180,605人（H29. 8. 31現在）

平成27年度　23,436人

「没後99年　夏目漱石ー漱石山房の日々」

「『ピーターラビットのおはなし』～ビアトリクス・ポターの世界～」

「ブンガク最前線ー北九州発」　他

平成28年度　24,743人

「宮西達也ワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち」

「没後20年　司馬遼太郎展　21世紀〝未来の街角〟で」　他

イ　教育普及活動

講演会や講座、出前授業等、文学館内外での活発な教育普及活動を展開し、多くの市民に文学にふれる機会を提供してきた実績を持つ。

【大人向け事業】講演会・対談、文学館セミナー、文学館文庫発刊等

【子ども向け事業】読み聞かせ、企画展に係るワークショップ等

講演会

バースデーコンサート

宮西達也ワンダーランド展

ウ　充実した所蔵資料

火野葦平、橋本多佳子、宗左近などゆかりの作家の文学資料が包括的に寄贈・寄託されている。市民の財産ともいうべき貴重な文学資料の受け皿として機能してきた。現在までに、12万点超の所蔵資料を有する。

主な所蔵資料

文学者	資　料　名	概　要
森　鷗外	賀古鶴所あて書簡（1920.1.11）	「森戸事件」の所感を記している。
杉田　久女	自筆資料「『句集花衣』について」	1939年11月9日筆。同年9月に遺句稿（圓通寺蔵）を編集したのちに執筆。
橋本　多佳子	上司海雲あて書簡（1963.2.25）	最期の句「雪はげし書遺すこと何ぞ多き」が記されている。
横山　白虹	短冊「雪霏々と舷梯のぼる眸ぬれたり」	復刊「自鳴鐘」創刊号掲載の代表句
林　芙美子	林芙美子の書簡	1945年9月8日付、川端康成宛て書簡

火野　葦平	火野葦平「従軍手帳」（寄託資料）	火野葦平が戦地で書き残したメモ群
岩下　俊作	岩下俊作自筆原稿	岩下俊作「富島松五郎伝」の自筆原稿
劉　　寒吉	劉寒吉自筆原稿	劉寒吉「阿蘇外輪山」の自筆原稿
伊馬　春部	伊馬春部自筆原稿	小説「神々の爆笑」の自筆原稿
宗　　左近	ノート「炎える母 1964」	代表作『炎える母』の創作ノート
ﾘﾘｰ･ﾌﾗﾝｷｰ	リリー･フランキーの自筆原稿	「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」の原稿（全文）

(3) 全国規模で実施する複数の文学賞

平成26年度に創設した「林芙美子文学賞」には、全国から多くの応募がある。また、子どもの文学的才能を伸ばすという観点から「子どもノンフィクション文学賞」や「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールなども実施している。

第3回林芙美子文学賞表彰式 平成29年2月26日 リーガロイヤルホテル小倉

4　入館者のニーズ

開館以来10年が経過し、その間、社会情勢は大きく変化してきた。また、文学館の存在意義や利用者のニーズも大きく変化してきている。リニューアルは、これらの現状をよく踏まえた上で推進していく。

(1) 本市をめぐる状況

ア　国内には、全国文学館協議会に加盟している文学館が100館存在し、当館ならではの特色づくりが求められている。

(2) 国内の文学館をめぐる状況

ア　インターネット等の様々な情報メディアの普及による生活環境の変化や活字離れ。

イ　大学や文学館における研究は物故作家を中心とするものから、現在活躍する作家やその作品にも拡大。

ウ　原稿を手書きする作家の減少。（全体の5%程度といわれている）

エ　電子書籍の増加。

5　北九州市立文学館の現状と課題

これまでの活動を継続し、より一層の充実を図っていく上での課題を整理する。

(1) 常設展示内容の固定化・情報化の遅れ

- 展示が明治から昭和までに活躍した作家に留まっており、明治以前、平成以降に登場した作家の紹介ができていない。
- 常設展示の内容が固定化しているため、リピーターが少ない。
- 10年間の調査研究の成果や最新の情報が反映できていない。
- 展示シナリオは抜本的に見直し、常に新しい情報を提供できるように可変性を持たせるなど、既存のツールのみならず、新しい展示方法を工夫する必要がある。
- 手書き原稿の減少に伴う、ＩＴ技術を駆使した展示への対応。作家の人物像が伝わる展示の工夫。
- 映像展示が弱い。デザイン、情報関連の大学との博学連携も視野に入れる。
- ポイントを押さえた作品紹介の紙などの展示紹介の工夫の必要性がある。
- 文学館の展示は平面的なイメージ。ライブな文学館、生きた文学館であって欲しいという要望に対して、五感を使った展示の工夫の必要性。
- その作家の誕生月や期間を限定した形で、スポット的な展示等の検討。
- 大人も楽しめるような展示の工夫の必要性。
- 図書館との差別化を図り、文学館は文学の奥行き、作家の背景を少し踏み込んだところを展示する必要性。
- 常設展とスポット展示のバランスを取り、リピーター獲得のための展示方法の検討。

(2) 所蔵資料の利活用が不十分

- 開館以来、寄贈・寄託資料の受け皿としても機能してきたが、それらの文芸資料の紹介がほとんどできていない。所蔵資料を展示する企画展が数年に1回しかない。
- 常設展示の展示ケースはその構造上、スペースが不十分で、展示できる資料が固定化される。
- 充実したコレクションを広く市民に公開するためには、常時展示ができるスペースが必要となる。

(3) 情報や活動成果の公開の必要性

- 調査研究活動の成果は、市民等へ公開していくことが求められるが、情報公開のインフラが整えられていない。
- 来館して欲しい層に向けた情報発信の強化が必要。
- コレクションや調査研究の情報デジタル化を進めていくとともに、速やかにアウトプットしていくことが必要。
- 「あそこに行くと得られる」という『何か』が必要。
- 文学館の認知度の向上。看板以外の物理的な方法の検討が必要。
- 現行の資料データベースシステムは、タッチパネル式で使いづらく、来館者にはほとんど利用されていない。
- 専門職や研究者に対しては、それに答えられる資料などが重要。学芸員や館長との意見交換ができる態勢の検討。
- 図書館との違いは、研究者が文学館の資料を基にして研究できるところであるため、研究センターのような役割を担う必要性がある。

(4) アメニティ設備等の不備

- エレベーターは備わっているものの、階段が主導線である。常設展や企画展の見学には、1階から2階までの階段往復が必要となるため、高齢者等や小さな子ども連れには負担感がある。
- トイレの位置が悪いため、ステンドグラス側をステージとしたイベントでは、利用しにくいとの声が多い。
- アメニティ設備の質が悪く（ウォシュレットが無い、水流が激しすぎるなど）、入館者から度々指摘を受けている。
- 展示室などが暑く、資料への負担が懸念される。照明をＬＥＤ等へ交換するなどの検討が必要。

(5) ユニバーサルデザイン

- サインや展示解説等の多言語対応が不十分なことから、誰もが公平に文学館を利用できるユニバーサルデザインの導入が必要とされる。
- 子どもたちや車椅子の方の目線の高さを考慮した展示の検討。
- 年表の文字が小さいため読みにくい。目や耳が不自由な方が安心して文学に触れられる工夫が必要である。
- 文学館専用の駐車場がなく、不便であるとの声が多い。

(6) 文芸資料保護環境への配慮

- 収蔵庫は密閉性が不足しているため、環境改善の必要がある。
- 収蔵庫は、天井が必要以上に高く、デッドスペースが大きい。また、２室（特別収蔵庫と一般収蔵庫）に分かれており、使い勝手が悪い。
- 空調システムが古く、オンオフしかできない。

・ステンドグラスからの外光や屋根の防水性に不安があり、資料展示場所に制限がある。
・貴重な文芸資料を次世代へ継承していくためには、安定的かつ良好な状態で保管・展示できる設備が必要とされる。

(7) 教育普及機能・活動のさらなる充実

・小中学生など若年層の来館者が少ない。
・参加体験要素が乏しいため子どもたちが楽しく学べる要素に欠けている。
・小中学生の来館について、教育委員会を巻き込む形が必要である。
・美術館では、市内の小学校3年生を対象に（仮）ﾐｭｰｼﾞｱﾑ･ﾂｱｰ（美術鑑賞ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）を実施している。文学館でも、教科書に掲載されている作家の企画展・展示等を実施し、学校単位で来館いただく、インリーチ的なものが必要である。
・靴を脱いでくつろげるスペース、触って遊べるようなモノがあってもよい。リラックスして文学に触れられる空間づくりが必要である。ここから「文学」に興味を持つという流れの構築。
・本と読者をつなぐ人が重要。スタッフがエプロンを着用したり、イラストを付けたりなどして親しみやすさを増す必要性。
・学生たちが利用できるサテライトとして活用できないかを検討。

(8) 文学館のイメージ

・文学館オリジナルグッズの充実。（缶バッジなど）
・「文学」が付いているだけで、高尚なイメージがある。入口が入りにくい。
・文学館という名前を変えるだけで、子どもにとってはハードルが下がる。
・親しみやすさを増すため、キャラクター等の制作の検討。
・ＰＯＰなどの工夫。

(9) 周辺施設との親和性

・文学館は本市の中心部に位置している。付近一帯は小倉城を中心とした勝山公園であり、市民や外国人観光客等でにぎわいを見せている。北九州を代表する建築物として、景観への配慮や周辺のまちづくりとの協調等によって親和性を高め、北九州の魅力向上やシビックプライドを醸成することも求められる役割である。
・周辺施設（小倉城、小倉城庭園、松本清張記念館、図書館、（仮称）平和資料館等）との連携。回遊性。

(10)展示の国際化

・小倉城周辺を訪れる外国人観光客が増加している。また、留学生も多い。アジア文学などを取り入れることの検討。
・観光施設のルートの一環とする場合、文学館のコンセプトの確認も必要。

(11) 諸室構成等の課題

館内全体で動線が不明瞭で見学しにくい等、建物のレイアウトや諸室構成に起因する課題を整理する。

館内全体の動線が不明瞭で見学しにくい

2階

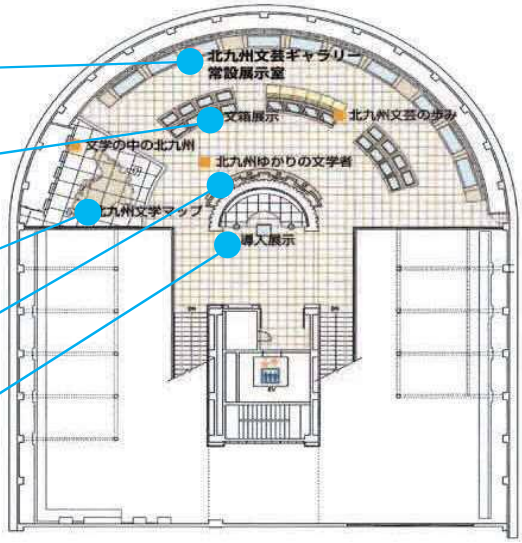
壁面展示が総花的

展示全体が車椅子利用者に対応できていない
(光反射、展示に近づけない)

「北九州文学マップ」や「文学の中の北九州」のコーナーが古い

使用されないモニターが多数存在

コレクションを常備できる展示スペースがない



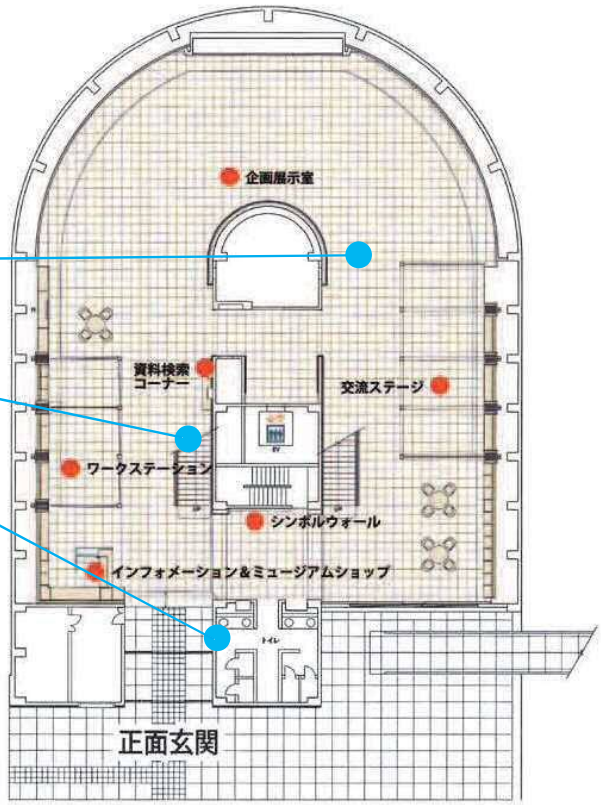
2階図面

1階

展覧会によっては東口(右側)を入口とするため、入館者動線と管理動線が異なる

長い階段が主導線のため高齢者等に負担感がある

トイレのアメニティ設備が不十分で入口の位置も悪い



1階図面

第２章　リニューアルの基本方針

１　基本理念

北九州市立文学館は、次の基本理念のもと文芸文化の振興に努めます。

まちの記憶を刻み、
まちの誇りを未来につなぐ文学館

北九州市立文学館は、本市ゆかりの文学者の顕彰と次世代への継承を目的に、文学資料の収集保存、調査、研究を行っている。その成果を企画展や図録、講演会などを通して発信し普及に努めている。それは、自ずと本市固有の歴史、風土、文化の特徴を浮かび上がらせ、街の記憶として刻まれ、街の誇りへとつながった。それらを確実に、未来（次世代を担う子どもたちや若者）に伝える歩みを進める。

(1) リニューアルの整備方針

当館の強みとメリット、入館者のニーズ、現状と課題を踏まえた上で、以下の3点をリニューアルの整備方針とし、文学館をより一層充実させる。

1　みんなの文学館　～みんなで学び、育てる文学館～
本市は、明治中期の森鷗外に始まり現代作家に至るまで、ゆかりの文学者を多数輩出している。それらの文芸資料を活かした展示や、研究成果に基づき北九州の豊かな文芸土壌を実感できる展示にする。 また、文芸団体や同人誌グループなど、北九州らしい展示コーナーを設けるとともに、ユニバーサルデザインに基づいて誰もが気軽に足を運び、情報交換ができる「みんなの文学館」を目指す。
2　楽しい文学館　～誰もが楽しく集える文学館～
活字離れが指摘される中、文学に親しむ機会を提供するとともに、体験型・体感型の展示を取り入れ、子どもから大人までが学べる「楽しい文学館」を目指す。また、学校との連携を強化し、次世代の文学ファンを育成する。
3　広がる文学館　～広く羽ばたく文学館～
文学館の周辺施設（小倉城・小倉城庭園等）は外国人観光客が増加しているため、展示の多言語表記やルビ表示を充実させる。また、それらの施設や市内文学関連施設との連携により付加価値を高め、北九州の魅了向上やシビックプライドを醸成していく「広がる文学館」を目指す。

(2) リニューアル後に目指す姿

みんなの文学館　～みんなで学び、育てる文学館～

○現在の展示内容の見直し
・明治以前、平成以降に登場した作家の紹介
・年表を簡略化し、数人の作家に焦点を当てたブース形式の展示への見直し
○所蔵コレクションの紹介
・期間を限定したスポット展示
○誰もが見やすい展示の工夫
・子どもや車椅子利用者の目線の高さを考慮した展示　・誰もが読みやすいよう、文字の大きさを工夫
○情報や活動成果の積極的な公開
・研究者や市民に向けた情報発信の強化　・紙媒体から SNS まで各世代に応じた手法の活用
○誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン
・手すりや階段などの安全対策　・エレベータまでの適切な誘導案内
・館内サインの充実（点字など）　・館内入口のデザインの変更
○アメニティ設備等の改善
・障害者等に配慮したトイレの改善　・トイレの入口改善
○文芸資料の管理・保護環境の改善
・展示資料に適したＬＥＤ照明の導入　・空調や温湿度管理の改善　・収蔵庫機能の向上（収納スペースの効率化等）

10 周年記念展示「森鷗外の書簡」

２階常設展示

楽しい文学館　～誰もが楽しく集える文学館～

特別企画展

講演会

ワークショップ

○子どもから大人まで楽しく学べる展示
・体験型・体感型の展示スペース
・本と読者をつなぐ仕組み（POP やイラストなど）
○リラックスして文学に触れられる空間
・リラックスして触れて遊べるような楽しめるスペース
○文学館の活用
・学生やサークル等との連携、活動の場の提供
・学校教育との連携
○親しみやすい文学館へのイメージ転換
・愛称をつける
・文学館のキャラクターやグッズの作成

広がる文学館　～広く羽ばたく文学館～

○展示の国際化
・展示の多言語表記やルビ表示
・外国人観光客向けの展示解説の充実（Ｗｉｆｉ等の活用）
・アジア圏に位置する文学館を意識した展示の工夫
○周辺施設との連携・回遊性
・他施設とのコラボ企画の検討
・カフェとの連携　・他施設間での相互案内

〔文学館〕

〔松本清張記念館〕

〔小倉城〕

〔小倉城庭園〕

目指す姿

まちの記憶を刻み、まちの誇りを未来につなぐ文学館

2　課題解決や具体的な方策

市民や観光客に文学館に親しんでもらい、文芸資料や企画展等を通して「文学の街・北九州」の情報発信が出来る機能を充実させていくことを第一に、現状の課題を解決する方策を具体的に示す。

課題解決にあたっては、建築躯体、展示設備等の現在の状況をしっかり把握し、優先順位とメリハリを付け、費用対効果を考慮したリニューアルを行う。

(1) みんなの文学館　～みんなで学び、育てる文学館～

ア　現在の展示内容を見直す

常設展示を再編し、若い世代にも関心が高い現代作家コーナーを1階に配置する。

また、北九州らしい展示として、同人誌等各団体がＰＲやお知らせできるコーナーを開設する。

２階の常設展示室は、北九州の歴史と文学を概観できるように、年表等は簡略化（持ち帰り資料等に変更）する。「北九州・近代文学の黎明」から始まり、「小説」、「詩」、「短歌・俳句」などのジャンル区分の中でブロック展示とし、主な作家を紹介する。

また、市民の貴重な財産である文芸資料は展示替えを行うようにする。

各ブースごとに必ず１つは視覚的に目を引く展示物またはしかけを行い、見飽きさせない工夫を施す。

イ　誰もが利用しやすいユニバーサルデザインにする。

子どもや車椅子利用者の目線の高さを十分考慮し、誰もが等しく、居心地よく文学館を利用できる環境を整える。

エレベーターまでの適切な誘導案内、点字等館内サインの充実に努める。

デザイン等を工夫し、温かみがあり足を踏み入れたくなる玄関口に変更する。

ウ　トイレなどアメニティ設備を改善し、入館者の利便性を向上させる。

障害者や高齢者等が、不便を感じていた導線やアメニティ設備を改善する。

エ　文学資料の管理・保護環境を改善する。

展示資料に適したＬＥＤ照明の改善等、展示・収蔵環境を改善し、保存性を高めるとともに、汚損・毀損リスクを低減させ、貴重な資料を守る。

オ　情報や活動成果を積極的に公開する。

市民や研究者に向けた情報発信の強化や、紙媒体からSNSまで各世代に応じた手法の活用など、多様な伝達手法を駆使して、本市の文芸文化の情報を幅広く発信する。

(2) 楽しい文学館　～誰もが楽しく集える文学館～

ア　子どもから大人まで楽しく学べる展示にする

体験型・体感型の展示部分を取り入れ、子どもから大人までが楽しく学べる工夫をする。

また、リラックスして文学に触れられる空間も取り入れる。

イ　学校教育等と連携する

義務教育の間に一度は来館してもらう仕組みや仕掛けを工夫する。また、学生やサークル活動等と連携し、活動の場を提供するとともに、教育普及機能の充実を図る。

ウ　親しみやすい文学館へのイメージ転換を図る

愛称の公募や、文学館のグッズの充実、入りやすく親しみやすい文学館へのイメージ転換を図る。

(3) 広がる文学館　～広く羽ばたく文学館～

ア　展示の国際化を図る

小倉城周辺の外国人観光客や留学生の増加に対応するため、展示の多言語表記やルビ表示等の充実に努める。また、Wifi等の環境改善を行う。

イ　周辺施設との連携・回遊性

文学館は本市の中心部に位置している。付近一帯は小倉城を中心とした勝山公園であり、市民や外国人観光客等でにぎわいを見せている。北九州を代表する建築物として、景観への配慮や周辺の施設等との協調等によって親和性を高め、北九州の魅力向上やシビックプライドを醸成していく。

3　リニューアルの概要

(1) フロアごとの性格

ア　1階フロアの構成

・現代作家コーナーを新たに設置し、若い世代の入館を促す。
・ミュージアムショップは発展拡張させる。

イ　2階フロアの構成

・北九州の歴史と文学を概観できるフロアとする。
・鑑賞性と保存環境、可変性を備えた高品質の展示環境等を導入する。照明や動線を整え、鑑賞しやすい環境を整える。
・所蔵コレクションとして、当館が所蔵する貴重な資料を年間を通じて公開できる環境を整える。
・同人誌など北九州らしいコーナーを活かす。
・展示資料は定期的にテーマ設定や資料の入替を行い、リピーターにも優しい充実したコレクションが鑑賞できるようにする。

ウ　周辺地域との親和性

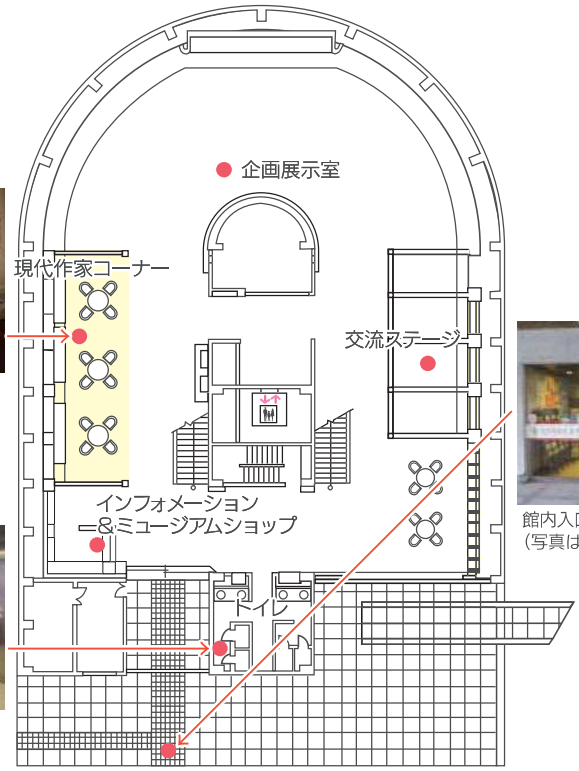
・文学館に入りやすい環境（文学館入口など）を整える。
・周辺文化施設と繋がる仕組みを強化し、外部との親和性を確保する。

(2) ゾーニング計画 (イメージ図)

1階　図面

現代作家を紹介し、気軽に書籍
なども読めるスペース
(写真は参考)

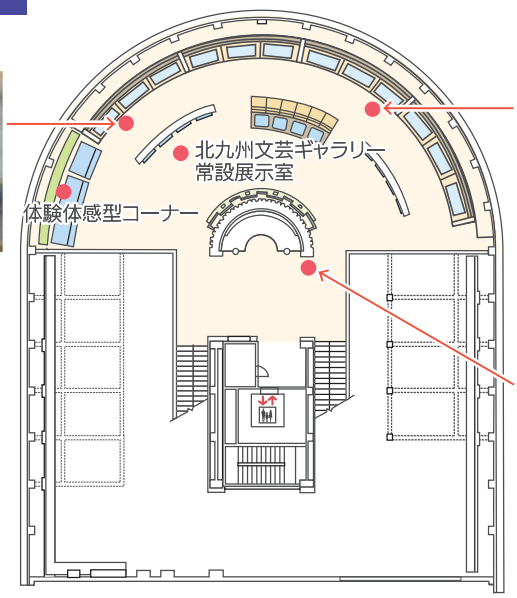
トイレの入口を新設する箇所
(写真は現状)



館内入口デザインの変更
(写真は現状)

2階　図面

定期的に展示資料を入替える
コーナー(写真は参考)



年表形式を改め、ジャンル別に展示
スペースを分け、代表的な文学者は
個別に紹介(写真は現行)

北九州の文学を全体的に紹介する
コーナー(写真は現行)

文学館に対する意見・要望

◆　市政モニターアンケート

・文学＝カチカチなイメージが強い。楽しいというイメージに変えて。
・敢えて文学館に行く理由が無い。文学以外にも楽しみがある時代に何故、文学館が必要なのか。必要だとすれば、誰もが楽しめる文学を紹介する事で興味を持ってもらう事から始めるべきでは。
・わかりやすい愛称があると良い。
・とにかく堅いイメージ。文学館に行ってみようという魅力を感じない。
・品格を保ちつつ10年経過。実績を基に現在がある。子どもたちに底辺を広げる工夫が欲しい。地域と共に育てる文学館を目指して。
・子ども連れの家族が来て、マナーを守りながら楽しめるもの。外国人観光客が立ち寄りたくなるような工夫。
・入口がわかりにくい。通りがかりに、入りたくなるような周囲の環境整備が必要。
・児童文学作家もいるが、小中学生に利用してもらえないのは非常に残念。小学校高学年の社会見学シーズンにあわせ、子ども向け企画展示をしてはどうか。
・大人向けの施設だと感じていた。親子で学べる施設にリニューアルして。

◆　文学館友の会アンケート

・図書館の前にあるので、悪い意味で一体化。全く違う空間であって欲しい。
・入口はインパクトのある文学館。入ると楽しいと思わせるもの。
・館内に立ち入りがたい雰囲気を感じる。外部から内部が見渡せる玄関扉。
・文学の堅苦しさを解きほぐす工夫を望む。
・清張、鷗外、まんが、小倉城庭園など他施設とのコラボ。日本人旅行客の導線の一つに。
・文学館へのアプローチ（正面通路、駐車場側通路）が無味乾燥で殺風景。入口も一工夫して存在感を示して。
・文学館というだけで、一般人にはハードルが高い。文学の分野をもう少し広くしたら。
・常設展示はさすがに見飽きた。一新して。
・文学館がある街はそれだけで誇り。リニューアルするなら、入りやすく、親しみやすいものに。子どもたちが文化度の高さを実感できる場所。
・北九州市立文学館でしか手に入らないグッズを増やす。北九州を訪れた人にも、文学好きの人にもたまらない魅力あるリニューアルを期待する。
・学校教育、図書館教育との連携があってしかるべき。
・よく調べた見応えのある展示は必要。決してイージーな方向に迎合することのないように。

◆　障害福祉団体アンケート

・展示の仕方、車椅子などの目線も考慮して欲しい。
・車椅子が足元のコードカバーにひっかかる。
・点字を増やして欲しい。
・ヘッドフォンの音声ガイドがあると助かる。
・触れる展示物が欲しい。
・多目的トイレが狭く、車椅子の方の動線が困難、改修して欲しい。
・特別支援学校の校外学習などの機会にもっと利用できれば。

◆　大学生アンケート

・文学というテーマであるため小学生には難しい。学んでもらうというよりは、楽しんでもらうような設備が欲しい。
・毎月、お薦めの本の紹介ブースが欲しい。
・季節ごとの俳句や作品を集めた展示。
・インスタレーションのような不思議な空間があると子どもは楽しめるのではないか。
・近年、若者はSNSなどをよく利用する。
・2階の展示は全体的に文字が多く、とっつきにくい。
・体験型・体感型が欲しい。
・目玉となるオリジナルグッズが欲しい。
・現在の文学館はその道に詳しい方、とても興味がある方には楽しんでもらえる。しかし、それ以外の方は楽しみ方が分からないのでは。
・年表の上に飾ってある同人誌や雑誌がとても可愛い。同人誌の表紙が印刷されたTシャツが欲しい。
・女性俳人や随筆家のくくりに分けて定期的に展示。

◆　小学生新聞作成教室（文学館を取材）

・パネルや映像を通して、豊かな文芸土壌に触れることができた。
・知らない人がいたら教えてあげたい。
・文学者がたくさんいて驚いた。
・合唱の歌のなかに「みずかみかずよ」さんの歌があった。調べたいと思った。
・ステンドグラスが色とりどりできれい。
・子ども向けの説明ブースやパンフレットがあればよい。（母）